

高度情報セキュリティに向けた真性乱数生成用集積回路の研究開発（株式会社 東芝）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
13 - 03	A	<p>高い研究成果を挙げており、今後研究計画もしっかりしている。真性乱数発生に関する新たな知見も得られていて、十分な研究成果を上げている。特許も多い。また、この技術に対する社会的なニーズも増大している。是非、継続すべき研究開発である。</p> <p>研究開発成果を利用したシステムLSI製品の市場投入までの開発工程、体制等総合して十分に検討が行われている。事業化までの計画が長く、少しでも前倒しの市場投入を検討することが望ましいが、商品寿命は比較的長期性を有するものであると想定できる。受託企業のシステムLSIに関する実績は申し分なく、基本方針は堅実である。事業化に際しては、ICカード市場に限らず、各種情報家電、携帯端末等多岐にわたるため、事業化の幅を広げるとともに、今、製品化に向けて様々な観点から高い安全性の確保、コストの低減を図って頂きたい。</p>		